

リキュールの試作 (2)

誌名	岩手県醸造食品試験場報告
ISSN	03874966
巻/号	16
掲載ページ	p. 98-100
発行年月	1982年5月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



24 リキュールの試作(2)

マタタビとシソの利用

佐藤郁子・大澤純也・桜井 広
多田勝郎・佐藤秀春*・村井一男

リキュール、とくにマタタビの利用については、県内消費者の強い要望もあって、昨年度より試作試験を行っているものである。

マタタビは県内では殆んどどこにでもあり、山地や河岸などの傾斜地に生育が多く、その果実は図の様に先端が尖った長楕円形であるが、つぼみの時に虫癭となって肥大した。“木天蓼”と呼ばれるものがリュウマチ、神経痛、中風、強心、強壯など薬効があるといわれている¹⁾

本年度は、このマタタビを楕円形果実と虫癭果とに分けて使用し、またシソについては赤シソで(昨年度は青シソ使用)試作試験を行った。

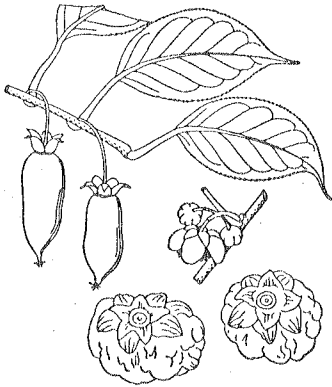


図1 マタタビ
(木の酒、草の酒、果実の酒
(石田、清水)より)

方法および結果

1. 原料

- (1) マタタビ 川井村で採取
- (2) シソ 都南村見前農協産

2. 原料の処理

昨年度試験の結果、マタタビは青果に比し乾燥果使用のものが良好だったので、本試験は乾燥果によることとし、右図の処理をした。

3. 漬け込み

漬け込みの方法および期間を表1に示す。概ね前報²⁾に準じたが、糖分については、昨年度糖を控えたために味うすの感があっ

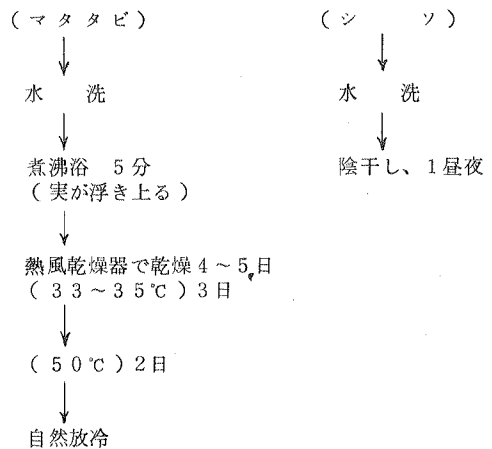


図2 原料の処理

* 横屋酒造(株)

たので、今回は多目に使用した。

表 1

No.	原 料				漬 け 込 み 期 間	熟成期間
	品 名	数 量	35% アルコール	糖		
1	シ ソ (乾)	65 ^g	8 ^ℓ	1 ^{kg}	3 ケ 月	3 ヶ月以上
2	マタタビ (楕円形)	" 500	10	1	"	"
3	マタタビ (虫 癭)	" 1,500	27	1.5	"	"

4. 漬込み期間中の成分

表 2

項目	浸出日数	(No.1) シ ソ			(No.2) マタタビ (楕円形)			(No.3) マタタビ (虫癭)		
		30日	70日	150日 (戸別)	30	70	150日 (戸別)	30	70	150日 (戸別)
ピルビン酸 mg/ℓ		6.3	2.9	5.9	4.4	2.0	—	5.7	2.9	2.1
リンゴ酸 "		3.0	3.8	4.0	76.6	41.2	92.9	63.6	37.6	86.0
クエン酸 "		12.7	10.4	9.2	38.1	28.6	44.6	22.9	20.8	29.2
糖 度		17.4	20.2		18.0	19.6		17.8	18.5	
色 調	L	81.47	75.96		88.80	81.10		88.64	89.45	
	a	-1.04	1.59		-0.47	3.14		-0.68	-1.18	
	b	35.23	35.81		28.56	33.87		27.38	30.61	
酸 度				0.15			1.05			1.00
ア ル コ ー ル 比 重				32.6			32.8			32.8
				1,010			1,004			0.992

浸漬中の色の浸出は、乾燥度の関係か、あまり肉眼的には変動がなかった。また糖は、思ったより溶解が悪く沈着していたので分析値も低値となった。有機酸では malic, Citric のほかは殆んど検知できなかった。マタタビ中の両者は、いずれも楕円形果実使用のものにやや多かった。

5. 熟成

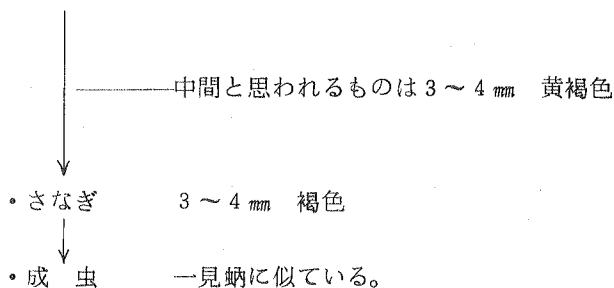
昨年度試作試験を行ったマタタビ酒について、1年熟成後に啗酒したところ、香味調和し、まろやかな酒質となっており、熟成の効果を思わせたが本試験酒も熟成による好結果を期待して、現在試験中である。

6. その他

(1) 本試験に使用したマタタビ (虫癭) 果中に生存していた虫について。

○実体顕微鏡で観察の結果

・幼 虫 体長 5 ~ 7 mm 乳白色、頭部が黄~黄褐色を呈している。



この虫は、園芸試験場で鑑定したところ、マタタビタマバエ (*Asphonbylia matatabi*) と判名。

(2) マタタビ乾燥処理中の出来事

某新聞での記事にマタタビで陶酔しているライオンの写真が掲載されていたが、当試験場でマタタビ乾燥中にも同じ様な情景に遭遇した。この反応とマタタビ酒の薬効は高い相関を示すだろうか、今後の楽しい課題でもある。

おわりに、本試験に協力下さった細川彙吉、細川富美子の両氏、マタタビタマバエの判定に御尽力下さった園芸試験場専門研究員千葉武勝氏、ならびに昨年引き続き試料の採集に協力して下さいました藤本秀男氏に深謝します。

参 考 文 献

- 1) 安本広義、片岡佐太郎共編：岩手の薬草—見分け方、用い方— (熊谷印刷出版部)(昭55)
- 2) 佐藤、大澤、桜井、村井：本誌15、99 (1981)